

修学旅行、社会科見学の特別料金にて鑑賞された 中学2年生の感想文です。(原文まま)

相撲を見に行つて

僕は相撲に全くと言っても過言ではないぐらいに興味がなかった。なのでNHKで相撲がやっついてもまったく見たことがなかった。有名な力士ぐらいは知つていたが、相撲を見に行くつと聞いてかなり驚いた。決まり手などと言われた際にはなんだそれはと首をかしげていた。また相撲を見に行くのは本校でもこの学年が初めてだと聞き、もし問題を起こしたら大変だつという恐怖心もあつた。

僕はあつけにとられた。学校で相撲健康体操をやつた際に力士が全員股割りができると聞いたときのように。僕は正直言つと、いや言つまでもなく相撲をあまく見ていた。相撲を見るならテレビの方が絶対に見やすいだらつと思つていた。たしかにテレビの方が大きく見えるし見やすかつただらつ。僕が言いたいのはそうじゃない。直に相撲つというものを自分の目で見ているつということに感動したのである。やはり生つというものはなんでも違つただらつか。最近では生ラムネなどの商品名に生がついているものもある。それはあんまり関係がないが、初めて相撲を見て感じたのは、国技館がつとにかく大きい。外から見つ分にはあまり大きいようには見えなかつた。そしてもう一つ感じたのは、見てても全くあきないことだ。ずっと見てたらあきるだらつと思つたが、むしろ楽しくてしかたなかつた。力士の名を叫び、応援するのは、まるで自分も参加しているかのような臨場感を覚えた。また機会があれば見に行つてみたいと思つた。

大相撲取組見学

僕ははじめ、相撲には全く興味がなかった。長つたらしくて四股を踏んで時間がかかるのに、あつけなく勝負が終わるのを見つと、いつもテレビのチャンネルを変えてしまつていた。しかし、今回の見学、事前学習を通過して興味をもつたことがいくつあつた。

一つ目は、力士はただ太つているだけではないつということである。事前学習で相撲健康体操をやつて、自分の股関節の固さと力士の股関節の柔らかさを思い知つた。また、力士を近くで見た時の筋肉の量が半端じゃなかつた。ちゃんと努力をして鍛錬された体で相撲をとつているつところが感心できた。

二つ目は、テレビと肉眼で見つことにおいては、歴然とした違いがあつた。まず第一に迫力が違つた。四股踏みと塩まきを生で見つてから見る相撲は国技館の喚声との一体感で一味違つた。

しかし、四股を踏む時に国技館が揺れるのかつと思つたが、そんなことは全くなかつた。そこは少しがっかりした。

三つ目は、一人でテレビを見つのとみんなで見つて見るのが全然違つたつということである。一生懸命見つということと、みんなが集中して見るつという一体感から、なんつとも言えない臨場感ができるのである。また、全力で見つてから途中で顔をふきに戻つたり塩をまくために戻つたりすることが、途中の目の休みになつて丁度いい感じで見つて取組を見つことができるのである。

こんな感じで、僕の相撲の価値観は一変したのである。